

現地を訪問して想うこと

碓氷 嘉一（2007・経済）

まず今回の校友会の企画及び、参加させて頂いたことに感謝したいと思います。縁があってツアーと一緒にした校友会の方々とともに、現地の校友会の方々にお会いできて改めて全国各地でご活躍されていることを知り、大変強い刺激を受けました。

今回の東北応援ツアーの岩手県コースに参加した理由として、三点あります。

第一に人生の中で東北地方を一度も訪問したことがなく、旅行が趣味であるためすぐに関心を持ちました。また岩手県は震災の被害が大きい地域であることから、震災当日に何がそこでは起き、人々はどのような想いで行動したのか一度お話を聞きたかったというのが理由の一つです。

第二に復興支援について何か自分にできることはないかと考えているものの、何も行動できていないのが現状で、今回の企画は自分自身にとって何ができるのかを考える絶好の機会となると確信しました。

第三に少しずつ慣れてきた社会人生活において新たな発見、刺激を得たいという思いから、全国各地でご活躍されている多くの校友会方々と出会うことができる企画に以前より関心を持っていたことです。

一泊二日という短い時間ではありましたが、貴重な時間となったことはもちろん、多くの発見、気づきを得ることができました。

第一に、進まぬ復興を現地で実感できたことです。

陸前高田では、瓦礫があちらこちらにあり見渡す限り建物や住宅が存在しておらず、普段の生活では想像し難い景色がそこにはありました。印象として残っている点としては、校友会の鈴木様による講話で震災当日の津波による被害をまるで「地獄絵図」のようだったと表現をされてことです。この被害の原因として多くの原因が挙げられますが、特にお話を聞かなかで印象深かった点としては津波の情報が正確且つ、迅速に伝達されず、また避難地が各自で明確にされていなかったことです。今後こうした原因の対策が必要なことはもちろん、少しずつではありますが土地のかさ上げ等の復興が進んでいることから、一時避難している元住民の方々が一刻も早く故郷で生活できることを願っています。

第二に、今の自分に何ができるのか、更には復興支援に対して果たしてできることはあるのか深く考える機会となりました。

今まで震災を風化させてはいけない、復興が早く進んで欲しいという気持ちだけでしたが、行動に移すことが重要であると現地に行って強く感じました。行動は、人それぞれの考えによると思いますが東北地方の製品やサービス、特に観光やお土産等を積極的に利用することがまずは誰しもうち早く行動できることです。一人一人ができることを考え、それを行動に移すこと、それが身近な復興支援であると考えます。